

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果の概要について

はじめに

全国学力・学習状況調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、以下の3点を調査の目的としています。まず1点目、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析して、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ること。2点目は、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てること。3点目は、その取り組みを通じて教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することとしています。

川西町・三宅町式下中学校組合教育委員会では、児童・生徒質問調査の結果も併せて、今年度の中学3年生の全国学力・学習状況調査の結果の分析を行い、ここに公表させていただきます。このことが、保護者や町民のみなさまの教育への関心をさらに高めていただく機会となることを願います。

なお、本調査結果は、学力の特定の一部であることや学校における教育活動の一側面に過ぎないこと、また、学校では様々な教育活動を進めていることを十分ご理解いただきますようお願いいたします。また、学校目標を達成するには、学校と地域・家庭との連携が不可欠です。学校におきましては、生徒・教職員が力を合わせて、様々な活動に取り組んでいることについてご理解をいただき、今後共ご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和6年10月 川西町・三宅町式下中学校組合教育委員会

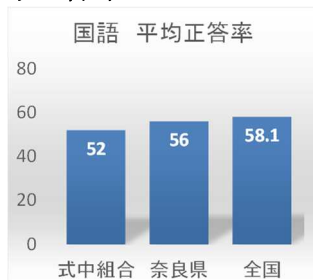
1 調査の概要

- (1) 実施日 令和6年4月18日(木)
- (2) 調査対象 川西町・三宅町式下中学校組合立式下中学校3年生
- (3) 調査内容 <教科に関する調査：国語・数学>
<生徒質問調査：学習意欲・学習方法・学習環境・生活の諸側面などに関する調査>

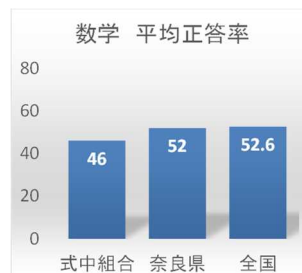
2 調査の目的

生徒の学力や学習状況の一側面を、教科による調査や質問調査を分析・考察することによって把握し、授業改善や生活意識・生活習慣の向上につなげることを目的として実施するものです。

3 各教科の平均正答率



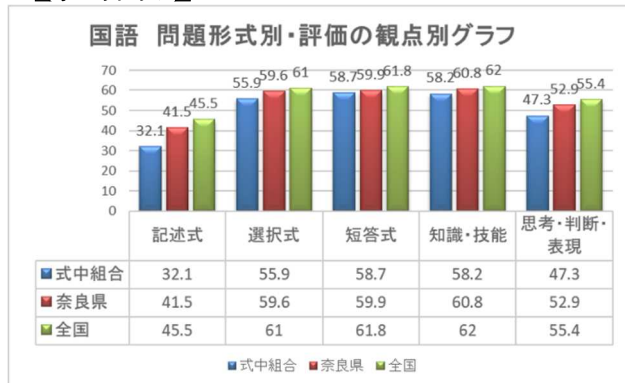
国語の正答率は、式中校内平均正答率52% (全国比-6.1%) でした。



数学の正答率は、校内平均正答率46% (全国比-6.5%) でした。

4 各教科の調査結果を受けての考察

【国語】



問題形式別平均正答率を見ると、「記述式」は32.1% (全国比-13.4%)、「選択式」は55.9% (全国比-5.1%)、「短答式」は58.7% (全国比-3.1%)であった。また、評価の観点別平均正答率は、「知識・技能」が58.2% (全国比-3.8%)、「思考・判断・表現」は47.3% (全国比-8.1%)となっている。

◎正答率が高かったものとして、次のような問題が挙げられる。

①短歌の内容について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる。

④二(知・技) 49.0% (全国比+0.7%)

●特に、全国の正答率と比べ、低かったものとして、次のような問題が挙げられる。

①話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。①四(思・判) 25.0% (全国比-19.7%)

②目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる。

②四(思・判) 29.8% (全国比-12.8%)

③文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる。

②一 (思・判) 24.0% (全国比-12.3%)

④具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる。

②二 (知・技) 64.4% (全国比-10.8%)

⑤資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができるかどうかをみる。

①二 (思・判) 59.6% (全国比-8.9%)

【数学】

学習指導要領の領域で正答率を見ると、「数と式」は44.8% (全国比-6.3%)、「図形」は36.9% (全国比-3.4%)、「関数」は56.3% (全国比-4.4%)、「データの活用」は44.7% (全国比-10.8%)となっている。

評価の観点で正答率を見ると、「知識・技能」は55.9% (全国比-7.2%)、「思考・判断・表現」は24.6% (全国比-4.7%)となっている。

◎正答率が高かったものとして、次のような問題が挙げられる。

① 二つのグラフにおけるY軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかをみる。

⑧(1) (知・技) 84.6% (全国比+1.2%)

② 筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる。

⑨(1) (思・判) 27.9% (全国比+2.1%)

●特に全国の正答率と比べ、低かったものとして、次のような問題が挙げられる。

①与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうかをみる。

⑦(1) (知・技) 57.7% (全国比-16.6%)

③ 複数の集団のデータの分析から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる。

⑦(3) (知・技) 36.5% (全国比-12.0%)

④ 回転移動について理解しているかどうかをみる。

③ (知・技) 57.7% (全国比-10.6%)

⑤ 等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる。

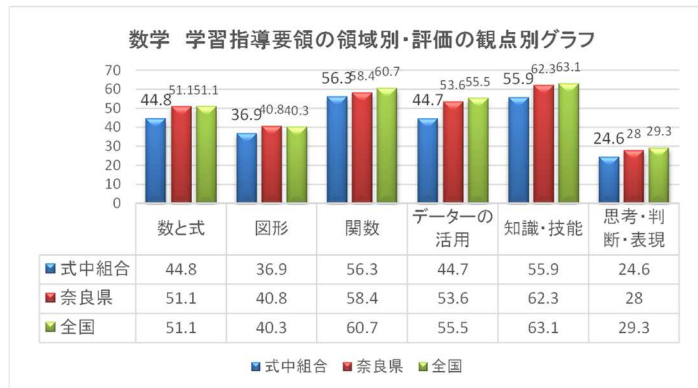
② (知・技) 42.3% (全国比-10.2%)

⑥ 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。

⑦(2) (思・判) 17.3% (全国比-8.6%)

領域別の正答率では「数と式」「図形」「関数」「データの活用」のすべての領域で全国平均を下回っており、「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点でも全国平均を下回っていることから基礎基本の定着が不十分であると考えられる。問題②「等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる。」と③「回転移動について理解しているかどうかをみる。」の正答率が特別低い点も知識理解の観点で定着していないことがわかる。さらに、⑨(2)「事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる。」以外の問題において、無回答率が全国値よりも高く、数学に対する苦手意識を拭うことができていないとも考えられる。

正答数の分布を見ると、正答数が12問以上の人数が少なくなっているのに対して、5問以下的人数が多くなっていることから基礎学力の底上げが必要であると考えられる。



5 生徒質問の回答からの考察

A) 学習に対する生徒質問からは、「国語の勉強は好きですか。」に対して、肯定的解答は50.9% (全国比-13.4%)と、国語に対して苦手意識を持っている生徒が多いことがわかる。その数値は多くの問題において無解答率が全国平均を上回ってしまっていることにもつながっていると考えられる。

また、「今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。」という質問に、「最後まで書こうと努力した」は64.4% (全国比-7.6%)であり、さらに「書く問題は全く解答しなかった。」と答えた生徒が6.7% (全国比+2.9%)と全国平均を上回っていることから、粘り強く取り組む姿勢が習慣づいていないといえる。

<学習に対する関心・意欲・時間等> (抜粋)	(%)		
	式中中	奈良県	全国
国語の勉強は好きですか	50.9	59.7	64.3
国語の問題では、解答を文章で書く問題に対して、全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。	64.4	66.4	72.0
国語の授業で、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結びつけて考えをまとめていますか	72.2	71.9	80.5
国語の授業で、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書いていますか	65.7	68.2	76.7
数学の勉強は大切だと思いますか	83.3	85.0	87.2
数学の勉強は好きですか	47.2	54.2	57.2
数学の授業の内容は分かりますか	72.2	76.3	76.7
数学の授業で学習したことを将来、社会に出た時に役立つと思いますか	77.8	74.5	78.5
分からないことや詳しく知りたいことがあった時に自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	63.9	73.0	78.6
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか【まったくしないと回答】	41.7	18.9	13.1

特に、「思考力・判断力・表現力等」の観点については、「国語の授業で、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結びつけて考えをまとめていますか」に対しては全国比－8.3%、「国語の授業で、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書いていますか。」に対しても全国比－11% になっていて、課題が顕著に表れている。

数学については、「数学の勉強は大切だと思いますか」という質問に対して肯定的な回答をした生徒は 83.3% となっているが、「数学の勉強は好きですか」という質問に対して肯定的な回答をした生徒は 47.2% となっており、「大切だと思う」という意見と「好き」という意見に大きな隔たりがある。

また、「数学の授業の内容は分かりますか」という質問に対して肯定的な回答をした生徒は 72.2% であることから、今後は、分かるからできるようになる授業展開を行い、積極的に自ら学びに向かわせる工夫が必要である。さらに、「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いませんか」という質問に対して否定的な回答をした生徒が 21.3% おり、4 人に 1 人は数学が将来役に立たないと思っているという結果なので、実生活や社会の中で数学が役に立っている事例を生徒に紹介していくとともに、生徒自身が自発的にみつけられるよう意識付けをおこないたい。

今後も「わかった」「できた」を実感できる授業を目指し、基礎基本を定着させ、数学が苦手な生徒を減らしていきたい。また、教え合い・学び合いの活動を取り入れながら、生徒同士が説明し合える機会を多くとり入れたい。

学習全般に関して、「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」について全国比－14.1% であり、興味・関心を持ち、主体的に取り組もうとすることができていない。さらに「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」について、全くしないという回答が 41.7% と全国値に比べて 28.6% も高く、家庭学習を大切にする姿勢を養っていきたい。

B)生活習慣や自分や社会に対する関心への間では次のような回答であった。

基本的な生活習慣である「朝食を毎日食べている」「毎日同じくらいの時刻に寝ている」「毎日同じくらいの時刻に起きている」については肯定的な回答の割合が低い(それぞれ全国比－3.3%、－15%、－6.3%)。朝食と睡眠は学習意欲に結びつく内容なので注視していきたい。

「自分にはよいところがあると思いませんか」に対して、肯定的に答えた生徒は全国比－5.5% であるが、「当てはまる」と回答した生徒だけで比べると全国比－14.5% となる。自分に自信が強く持てない生徒が増えているように思われる。「将来の夢や目標を持っている」に対する肯定的に答えた生徒も全国比－14.4% と低かった。「人が困っているときは、進んで助けていますか」に対しての肯定的な回答は全国値よりも低い傾向である。「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に関しても、全国値よりもやや低い回答であった。また、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」に対しての肯定的な意見は全国値よりも低い傾向にある。

生徒のよいところを認めてさらに伸ばし、自信を持って自己実現できる生徒の育成を目指していかなければならないと感じる。

C)ICT 機器の活用については、「学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)、1 日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどの ICT 機器を勉強のために使っていますか。(遊びなどの目的に使う時間は除く)」について、「1 時間未満」と回答した生徒は 89.8% と全国値と比較して高い数値である。このことより、家庭学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を十分に使いきれないように感じられるので、有意義に家庭でも活用できるように工夫が必要であると思われる。上の表の⑤⑥⑦においては全国平均に近い、または上回っていることについて、学校の授業において次のような取り組みをしているからと思われる。

国語科は、情報を得る手段としての利用(語句について調べる、わからないことや読みの参考になることなど)。スプレッドシートやドキュメント、ロイロノートなどを活用し、自分の考えをまとめ推敲する活動に利用する。ワークシートに考えなどを入力し、それぞれの意見をグループや全体での交流に利用。NHK for School の活用等をおこなっている。

数学科では、以下のような ICT 機器を用いた学習方法に取り組んでいる。
・それぞれの習熟度が違うため、自分の理解度に合わせて演習をおこなえるようにするため、教科書の問いの解説を「Chrome 描画キャンバス」というツールで手書き作成し、それを問ごとにスライド

<規範意識、自尊感情及び社会に対する関心>(抜粋)				(%)
	式下中	奈良県	全国	
朝食を毎日食べている	87.9	88.6	91.2	
毎日同じくらいの時刻に寝ている	65.7	79.4	80.7	
毎月同じくらいの時刻に起きている	86.2	90.4	92.5	
自分には、よいところがあると思いませんか	77.8	80.7	83.3	
将来の夢や目標を持っていますか	51.9	63.1	66.3	
人が困っているときは、進んで助けていますか	87.9	87.9	90.1	
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	93.5	94.9	95.7	
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いませんか	66.7	70.7	76.2	

<ICTの活用について>(抜粋)				(%)
	式下中	奈良県	全国	
学校の授業以外に普段(月から金)、1日あたりどれくらいの時間、PCなどのICT機器を勉強のために使っていますか(1時間未満と回答した割合)	89.8	86.2	83.0	
1,2年生のときに受けた授業で、ICT機器を週3回以上使用しましたか	37.9	52.6	64.4	
1,2年生のときに受けた授業で、ICT機器を活用することで、				
①自分のペースで理解しながら学習を進めることができる	75.0	75.6	80.2	
②分からないことがあった時に、すぐに調べることができる	90.8	92.4	93.9	
③楽しみながら学習を進めることができる	79.6	79.5	82.4	
④画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよくわかる	83.3	86.5	89.0	
⑤自分の考えや意見を分かりやすく伝えたりすることができる	75.0	71.8	77.7	
⑥友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる	87.0	81.2	86.2	
⑦友達と協力しながら学習を進めることができる	87.0	81.8	85.2	

にまとめ、クラスルームを通じて演習時に送信し、生徒が自分のタイミングで解答を確認しながら自分のペースで学習を進めるようにする。

- ・他者の意見を参照できるように、スライドの同時編集機能を使って人の考えや意見を参考にしながら、自分の考えを深めていくことができるようにする。
- ・その日の授業で学んだことをフォーム機能を使って、「授業の内容」や「難しかった点、理解できなかった点、注意する点」を自分の言葉でまとめる振り返りを大切にする。

ただ、ICT機器の使用頻度については県比較で-14.7ポイント、全国比で-26.5ポイントと大きく差がついているので、全ての教科において有効活用できるように授業改革に取り組みなければならないと考える。

6 学力向上に向けた今後の取り組みについて

- ① 毎時間の目標を明確に示すことにより「何を学び」「何を理解すればよいのか」を生徒が捉えられるようにする。
- ② 主体的・対話的な学びができるよう、自分の考えを表現する活動を重視していく。その際、他者の意見や考えを知り、自分の考えや体験と比べたり関連付けたりすることで、深い学びになるようにつなげていく。
- ③ 豊かな表現ができるよう言葉に注目させる。単元毎に語句の意味調べをすることで、使える言葉を増やしていく。
- ④ ICTを活用して自ら考える力を育むとともに、他者の意見、考えに触れ、学び合いの中で幅広い思考力を身につけられるようにする。
- ⑤ 各生徒の理解度や解く速さが異なるため、ICTを活用して板書で解答を提示するのではなく、各生徒の端末に解答を送り、自らのタイミングで解答を見ることができるようにする（分からない生徒は解答を見ながら取り組み、早くできた生徒は答え合わせをして、余った時間を振り返りやワークなどに取り組めるようにする。）
- ⑥ 毎授業の終わりに、ICTを活用してGoogleのフォーム機能で「今日の授業で学んだこと」や「難しかったところや大事なポイント」などの振り返りができるようにする。
- ⑦ 演習時間はできている生徒が自由に動き、理解できていない生徒に教えるというスタンスをとることで、学び合う姿勢を高めていく。

以上、本組合管内中学校では、調査結果を受け授業改善を進めていくとしており、式下中学校組合教育委員会は、学校のこれらの取り組みを積極的に支援してまいります。